

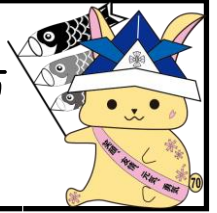
ときわだより

5月号

令和8年 4月30日

せせらぎ学びのエリア 上板橋第一中学校 上板橋小学校 常盤台小学校 弥生小学校

板橋区立常盤台小学校



ともにチャレンジする1年に！

常盤台小2年目となりました副校長です。日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力くださりありがとうございます。

変化の激しい現代において、我々教師の指導観もアップデートが求められています。次期学習指導要領策定に向けて議論が進む中で、前回の改定ではなかった話題が次々にあがっています。また令和8年度は板橋区の教育ビジョンも新しくなり、10年後の未来を見据えて、様々な取組が策定されています。その中で、「子ども一人ひとりの可能性を引き出し、伸ばす教育の実現」の施策として「板橋区授業スタンダードS」の推進が示されています。

「板橋区授業スタンダードS」とは、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自分で選び、決定し、調整しながら進める学習です。Sは「Self」「Select」を意味しています。子どもたちがそれぞれのペースで学習を進めているため、「板橋区授業スタンダードS」の授業を保護者の方々が参観すると、教師の指導行動が少なく、教師は見ているだけで何もしていないと感じられるかもしれません。しかし、一人ひとりの学習状況を見取り、その状況に応じた支援策を考え、適切に助言する。一斉一律の指示をしながら進める授業よりもはるかに難しいことを求められており、多くの教師は子どもの頃に自分が受けていない授業スタイルです。「板橋区授業スタンダードS」の授業は子どもの「主体性」を伸ばすのに有効で、次期学習指導要領改訂の議論でもあがっています。常盤台小学校の教員は、これまで積み重ねてきた体育科の授業研究を継続する形で、まずは体育科における「板橋区授業スタンダードS」にチャレンジし、その後、他教科にも拡げていきます。

子どもたちにとって「板橋区授業スタンダードS」の授業を進めていくと、教師から習っていないことが出てくるかもしれません。変化の激しいこれからの世の中において、「やったことがないからできない」では、人間ができる仕事は経験を蓄積したAIにとって代わられてしまいます。しかし、新しいことを始めた時には失敗はつきもので、経験や年を重ねれば重ねるほど、失敗は怖く、恥ずかしいものとなります。ただ、チャレンジした先に人としての成長があることもまた事実です。

サントリー創業者の鳥井信治郎さんが残した言葉に「やってみなはれ。やらなわからしまへんで。」があり、現在にも受け継がれているサントリーの企業理念です。この言葉には「失敗を恐れず、挑戦したいことに諦めずに挑戦する」という意味が込められています。挑戦を促すためには、周りで支える人たちが「やってみなはれ」の精神で見守ること、失敗を許せる「寛容さ」が必要です。

我々常盤台小の教職員は、子どもたちのチャレンジ精神を大切にし、失敗したまま終わらせず、成功するまで寄り添いながら、「できた」を引き出し、自己肯定感を高めていきます。引き続きご支援をよろしくお願い致します。